

全国・埼玉県 学力・学習状況調査の検証

和光市立大和中学校

【全国学力・学習状況調査結果（3年）】

<教科に関する調査>

国語

- ・全体の正答率は全国平均、県平均より高い。観点別でみると「知識・技能」及び「思考・判断・表現」は全国平均より高い。領域別では「我が国の言語文化」が、全国平均より非常に高い。しかし、「話すこと聞くこと」は埼玉県平均より低い。

数学

- ・全体の平均正答率は全国平均・県平均よりも高く、とくに知識・技能の観点については平均を大きく上回っている。領域別に見るとデータの活用（2年次の確立）が全国平均より低く、基礎基本の定着に課題がみられる。

【埼玉県学力・学習状況調査（1，2，3年）】

<教科に関する調査>

1年生

- ・国語は全体の正答率は県平均、市平均より高い。観点別にみても「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに県平均より高い。「思考判断表現」は県平均より高く、市平均と同値であった。
- ・数学は全体の平均正答率は県平均より高く、市平均とは同値となっている。「数と式」の領域についての正答率が市平均より低く、基礎的な計算や概念の知識に若干の課題があるとみられる。

2年生

- ・国語は全体の正答率は県平均、市平均より低い。観点別にみても県・市平均よりも低い。
- ・数学は平均正答率は県平均に比べ、全体的にも、観点別に見ても、領域別に見ても高い。「思考・判断・表現」の観点が県平均より高いが、市平均より若干低い。また「図形」においても市平均より低く、若干の課題がある。
- ・英語は全体の正答率は各項目が県平均と同じくらいか少し高く、知識・技能では県平均より高い。観点別にみても、領域で見ても、県平均よりは高く、市平均からは若干低いがほぼ同じ程度となっている。

3年生

- ・国語は全体の正答率は県平均より高く、市平均より低い。観点別にみると「知識・技能」は県・市平均よりも低くなっている。「思考・判断・表現」は県・市平均より高い。
- ・数学は全体の平均正答率は県平均より高いものの、市平均よりは低い。領域別にみると、「データの活用」（2年・確率）の正答率が県平均より低く、全国平均よりも低い。確率領域において内容の定着・活用に課題がみられる。
- ・英語は全体の正答率は県平均、市平均より高い。観点別にみても、領域でもみても、県平均・市平均よりも高い結果となっている。

<家庭での生活習慣等に関する調査>

- ・「学校に行くのは楽しいと思う」と答えた生徒の割合が県平均・全国平均より高い。
 - ・「自分にはよいところがあると思う」と答えた生徒の割合は全国平均と同程度で、県平均より低い。
 - ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒は県平均・全国平均よりは低い。
 - ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」
「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めた」と肯定回答の生徒の割合が県平均、全国平均より高かった。
- ⇒豊かな人間関係の中で、多くの生徒が諸課題解決に対し、話し合い活動を通じて合意形成を図ることに価値があることを理解している。また学習に対しても前向きな回答が多い。しかし、将来についての見通しを持っていない生徒も少なからずいる。今後も生徒の良いところを伸ばし、自己肯定感を一層高めていく。

<規律ある態度質問紙調査>

- ・どの学年においても、「時刻を守ること」「あいさつ・返事」「丁寧な言葉遣い」の項目についてのポイントが高い。今後も基本的な生活習慣を大切にして、穏やかに人間関係を築けるよう見守ることが求められる。

以上の結果を踏まえ、教育活動全体を通し、子供たちが健やかに育つようにしていく。学習の調査結果においても学年や該当教科でさらに分析を進め、生徒の苦手や躓きの把握および得意分野のさらなる伸長を目指し、今後の指導に生かしていく。